



## いろづく秋を迎えて

仲嶺 真弓

朝晩と日中の寒暖差が激しくなり、保育園のもみじやいちょうの葉がいろづき始めました。季節はあっという間に秋を迎えました。4・5歳児の運動会も10月17日に無事終わることができました。家庭保育のご協力ありがとうございました。

当日はあいにくの雨で、ホールでの開催となりましたが、子どもたちにとってはホールも日頃から過ごしている場所なので、場所に対する緊張感はなく、安心して自分がしたいと選んだ取り組みに挑戦できました。アトム共同福祉会の運動会は、“できる、できない”ということに重きを置くのではなく、“できたこともできなかったことも、子どもたち自身が心で何を感じたかが一番大事”と考えています。できた心地よさも、できなかった悔しさも次の瞬間に生きる力に変えてほしいと思いながら、職員は日々子どもたちを見守っています。4歳児は楽しむことを一番に、5歳児は自分で決めた目標を自分が納得できるところまでやりきることを大切にしています。今年の運動会も、4歳児は大いに楽しみながらも笑って、泣いて、悔しがって、怒ってと、そのままの姿をみせてくれました。5歳児はしたい…でもできないかもしれない…そんな揺れ動く思いを胸に、ドキドキするけどする！と、挑戦する姿がみられました。たしか、運動会の2～3日前も「きりん組はあと2回運動会できるけど、そう組さんはこれが保育園でできる最後の運動会。1回しかない。最後の運動会だよ。」と声をかけると、ほんの一瞬、表情がきりりと引き締まり、小さな眼差しの奥に、秘めたる闘志が見えました。いろづく秋と共に、子どもたちの個性も鮮やかにいろづいていることを感じます。運動会という行事を通して知れた子どもの姿も含め、後半の保育に繋げていきたいと思っています。

### 【 コロナ禍の園行事 】

運動会の観覧の仕方について後日、保護者から意見をいただきました。ありがとうございました。運動会当日の朝まで、自分たちが考えられる精一杯のことをしたのですが、意見を聞かせてもらえたことでもっとできたことがあったのだということに気付かされました。そこまで考えが及びませんでした。当日が雨ということも想定して、予行の段階で見学可能であるというお知らせをしていれば、当日来られなかった方も見ることはできたのではないかと。

兄弟児の保育についても、未就園児家庭と同じように、保護者と一緒に参加、もしくは保育利用・家庭保育かを各家庭の判断に任せてもよかったのではないかと。

雨天の場合は参加者を2名と限定したけれど、ホールに密集しないように、使っていない保育室を開放すれば、祖父母が来ても各家庭内で、交代で見るということもできたのではないかと…。などなど。

5歳児最後の運動会を祖父母にも見せたかったという思いを聞きながら、ただただ申し訳なく…。そんな中、子どもたちが楽しみにしていたリレー大会を祖父母に見せてもらえないかという提案をいただきました。それならできる！子どもたちからもリレーしたいという声があがっていると担任から聞いたので、今年度限定で、園行事としての5歳児のリレー大会を開催することにしました。1クラスなので、観覧人数制限なしでの開催です。詳しくは別紙でお知らせを配布しています。

### 【 10月30日（金）食を考える日 ～ 魚の解体ショー ～ をしました 】

ここ数年、ハロウィンの季節は「食を考える日」という園行事の一つと考え取り組んでいます。悪霊などを追い払うというよりは、秋の収穫を祝いたいという思いから食育の一環として魚の解体ショーを開催してきました。今までこの行事を支えてくださった網本さんが他界（9月のつばさっ子の巻頭で書きました）した今年度は、4歳児担任の山本知輝が何とかしたいと、魚のさばき方のプロ保護者父に相談したところ、そういうことならやってあげると引き受けてくれ、子どもたちの前で魚をさばくところを見せてくれました。食する魚は、切り身しか知らない子どもたちにとって、とても貴重な体験です。「いのちをいただきながら自分たちは生きている」ということを、子どもたちに伝える1つの大事なこの機会をこれからも大切にしていきたいと思っています。

